

## 令和3年度第2回下田市総合教育会議 会議録

開催日時： 令和3年12月24日（金）16時00分～17時00分

場 所： 下田市立中央公民館 大会議室

出席者：

### 【委員】

市長	松木 正一郎	教育長	佐々木 文夫
教育委員	田中 とし子	教育委員	西堀 政幸
教育委員	天野 美香		

### 【事務局】

学校教育課			
課長	糸賀 浩	参事	土屋 大祐
課長補佐	土屋 仁	子ども育成係長	内田 陽久
学校教育係長	原 隆史	指導主事	檜山 和人
生涯学習課			
課長	平川 博巳	図書係長	澤地 彩
社会教育係長	金守 俊彦		
企画課			
課長	鈴木 浩之	参事	土屋 剛
政策推進係長	本間 洋	主事	佐藤 友里

1 開会 16:00

2 あいさつ

・市長

今回の協議事項は「グローバルシティプロジェクト」である。教育の魅力化は人口減少社会においては非常に重要な分野である。市として、グローバルシティプロジェクトの中核にグローバルな教育を掲げ、進めていきたいと考えている。皆様の活発なご意見をいただきたい。

・教育長

市長の挨拶の中で「グローバルシティプロジェクト」は、教育を中心という話があった。教育委員の立場から様々なご意見をいただきたい。

3 報告事項

○学校の現状について（いじめ関係）

・事務局（学校教育課参事）より資料1・2・3に基づき説明。

【質疑、意見等】

・田中委員

質疑や意見はない。

・市長

SNSが子どもたちの生活に浸透している。デジタル社会の中でSNSについてのICTアドバイザーによるサポート（仮）とはどういったものか。

・学校教育課参事

現在ICT支援員によるサポートは行っているが、それだけでは対応が難しい。ICTに関する専門的なスタッフの配置ができれば、先生方で対応できない部分の指導が可能になると考えている。そういった支援の方法について模索している。

・市長

インターネットを通じたつながりの中にリスクがある。ICTの進化が早くリスク対応が追いつくのが難しい。学校以外の場でも危険性をもっている。学校教育課だけでなく行政として幅広い体制で対応していく必要がある。事務局はどう考えているか。

・生涯学習課長

家庭教育学級の中で、講師の派遣をして、家庭内での対応について啓発をしている。

地域でいうと育成会も、学校と連携をとって協力をしていただいているので、対応の一つとして考えられる。

・教育長

市PTA連絡協議会の中でも、ここ数年問題視されている。家庭教育学級や、PTAの活動の中で、専門家によるネットの使い方の講座を実施している。このように時間をかけながら保護者の方へ認識を持っていただくことと、PTA連絡協議会や育成会などの組織と連携をとっていじめの問題に取り組んでいる。

#### 4 協議事項

##### ○グローバルシティプロジェクト

・事務局（企画課政策推進係長）より資料4・5に基づき説明。

・企画課長

下田市は幕末の開港の歴史という地域資源がある中で、国際化がまちづくりのテーマとしてあったが、50周年を機に、もう一度しっかりと国際化について取り組もうというもの。

また、下田高校より地域と連携をとりたいとの話があった。来年度から下田市の中学校が一校化されるので中学校と高校の連携など、新たな動きが出てきた中で、一つ「国際化」をテーマに国際的な学習、国際的な交流を進めていこうというもの。既存の事業もベースにしつつ、新たなものをつくりあげていながら進めていきたい。

この事業については、教育委員会だけでなく、企画課や振興公社、市役所内でも横断的に連携し、市役所全体で取り組んでいきたいと考えている。

##### 【質疑、意見等】

・天野委員

素晴らしいプロジェクトである。特に、中高の連携は、中学生にとってとてもいい経験になる。これがきっかけになって、目的を持って高校の受験をするというつながりもできると思う。

・企画課長

下田高校の先生とも打合せを進めている。4月にいきなりできるわけでないが、徐々にできたらいいと考えている。

・天野委員

中学生が高校生と関わることで、先の成長度が変わってくる。

・西堀委員

下田高校の同窓会である豆陽会の中で、近年、賀茂地域外へ進学する子どもが増えているので、下田高校に中等部を併設して中高一貫校へとの話が出ていた。こういった話を聞いているようであればどう考えているのか。

・教育長

中高一貫校は中学生の成長の面ではいいかもしれないが、中学に進学するのに入試が必要となることや、少子化の課題を抱えた賀茂地域の義務教育の状況で新たに中等部を作るのは厳しい。数年前までは賀茂地域の子どもが賀茂地域の高校への進学率が80%を超えていたが、本年度下回った。公立学校としては、まずは高校の魅力化などを考えて、中高連携を図っていくことがいいと思う。

・市長

下田高校のもとの豆陽学校は教師を育て、教育の基盤を作ることが目的で作られた。近年では、成績が優秀な子ほど地域外へ出ている。子どもの自由であり止めることはできない。地元の子どもが外に出てしまう状況を豆陽会の方が憂いており、その対策の一つで中高一貫校をといたものだと聞いている。高校魅力化プロジェクトとして進学率を向上や、部活動で活躍するなどの事例がある中で、下田市ではグローバルに目をつけた。街じゅうをグローバルにして、その中心に学校でのグローバル教育を推進していくことを提案させてもらった。偏差値を上げることよりも、学ぶ姿勢や世界を知ることが大事なことだと考えている。

・教育長

中高の連携の中で、子どもたちを育てていくのは大事なことだと思う。

・田中委員

この計画は何年間の計画になるか。

・企画課長

明確に定めたものはないが、概ね3年で内容の見直しをしつつ、テーマは変えずに継続していく。

・田中委員

このプロジェクトでいう持続可能とはどういったことか。

・企画課

下田は、人口減少や高齢化で消滅都市とも言われている。歴史あるまちとして残り続けていくためには、人を育て、育った人が地元に住み続けたり、関係人口という地域外に出ても地元とつながりを持ち続けたりするなど、そのような人づくりをして持続していけたらという視点である。

・田中委員

人づくりの観点では、小中校の連携の一連の流れの中でどのようなこどもを育てたいのが重要である。小中高の成長過程に合わせた課題解決力を子どもたちが身に着けていくことが大切で、持続可能になる。中高連携といっても先生同士の話し合いだけでなく、取組まで行うことが必要である。

・教育長

『未来の下田創造プロジェクト』は、元々中学校の統合に合わせて、小中学校でどのようなこどもを育てていこうかということで立ち上がったものである。小中の先生、民間の方や保護者といった地域の方、今年から高校の先生も加わり、様々な関わりのなかで、子どもをどう育てていくかということ話を話合っている。時間はかかるかもしれないが、このプロジェクトを核に進めていきたいと考えている。

・企画課

これからの予測困難な時代には、チャレンジして、失敗しても前向きにとらえて進んでいける子どもを育てていくのが大事である。

『未来の下田創造プロジェクト』で、35歳の地元住民を育てるテーマに12のキーワードの整った教育環境ができると、そのような子どもを育つのではないかと考えている。4月にいきなりできるわけではないが、教育現場の声を聞きながら徐々に進めていきたい。

・教育長

グローバルシティは、今までもやってきたことかもしれないが、市として全面に出して、地域に発信し、市民にも知っていただきながらやっていきたい。

・企画課長

高校も来年度から教育課程が総合学習から総合探究に変わる。3年間を通して地域の課題の発見、課題の研究、課題に対してどういった関わりができるのかを考えるという仕組みに変わる。その中で高校から行政や地域とつながりたいとの要望がある。高校生と地域をつなげていくことを一つの手法で進めていきたい。

・田中委員

その中で小中高連携し、発表会などを行い、一貫したものがあるといい。

・市長

グローバルシティはすでに長野地域で使われているが、長野では地元の工場で働く外国人と共生するためのもの。

下田はアメリカの黒船来航や、ロシアのディアナ号が津波被害にあった時に日本人とロシア人お互いが助け合いをしたなどの歴史資源を活かしたグローバルシティを進めていきたいと考えている。下田の魅力を子どもたちにしっかり伝え、子どもたちが活躍できるようにすることが私たちの責務である。

・企画課長

『グローバルCITYプロジェクト』は、今後市内の会議を経て1月14日の式典の中で市の新たな事業として発表予定である。

5 連絡事項

○新下田中学校校歌について

・学校教育課長

12月23日に行われた統合準備委員会で校歌が承認された。

今後、YouTubeでの公表を予定している。

6 閉会 17:00